



北区の部屋だより

2026年3月 第199号



刊行物登録番号 6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL.03-5993-1125 令和8年3月発行

おくやみ

平成20年より17年余の長きにわたり、地域資料専門員・地域資料アドバイザーと北区の部屋で活躍下さいました黒川徳男氏が、令和7年11月19日にご逝去されました。

これまでのご尽力に感謝申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。今号では、黒川氏の業績の一端をご紹介します。

中央図書館館長及び職員一同



北区 こぼれ話 第199回

身の回りの歴史資料 —「えっ?!身近にあるよ文化財」展より—



「文化財」とは、美術品や歴史上の人物が残した古文書などだけを指す言葉ではありません。普通の家庭にある引き出しや押し入れの中の古い「紙」や「モノ」も文化財としての価値があるかもしれないのです。文化財としての価値と言っても金銭に換えられるものではなく、私たちに歴史を教えてくれるものとしての価値です。

国の政治や有名人などについては、多くの歴史書に記述があります。一方、地域の歴史を知るためには、住民から言い伝えを聞いたり、その地域に残されている古い「紙」や「モノ」を調べるといった方法が用いられます。古い手紙、役所の書類、領収証、回覧板、日記、生活用具、建築材料なども、歴史を語りかけてくれる文化財なのです。

また、区内の風景や人々を写した古い写真や絵葉書は、細かな情報や雰囲気をも今に伝えてくれま

す。しかし、これら身の回りの「紙」や「モノ」は、ありふれたものだからこそ現在に残らないという面があります。つまり、私たちは、日々の生活の中で知らず知らずの間に文化財を捨てているかもしれないのです。

こんなものも貴重な資料—戦争と軍関係施設—

北区域には多くの軍関係施設がありました。しかし、戦前・戦中はそれらの写真撮影は原則として禁じられていました。そのため、軍関係施設の絵葉書は貴重な画像資料です。なお、北区域の多くの地域はアメリカ軍による空襲を受け、たくさんの文化財が焼失してしまいました。さらに、終戦後、行政機関の軍事関係文書は焼却されました。そのため、一般の家庭で保存されてきた戦争・軍事関係の資料は大変に貴重なのです。

(地域資料専門員 黒川 徳男[成稿])

この「こぼれ話」は、2001年(平成13)9月8日から24日かけて飛鳥山博物館で開催された北区飛鳥山博物館、北区教育委員会生涯学習部生涯学習推進課文化財係、北区行政資料センター3係(名称・組織は当時)が合同で企画したミニ展示「えっ?!身近にあるよ文化財」展の際、近現代部門を担当した黒川徳男氏のパネル原稿をあらためて文章化したものです。

※副題は「こぼれ話」として成稿するため補記し「こんなものも貴重な資料」については紙幅の関係上「戦争と軍関係施設」部分のみ紹介しています。



2007年(平成19)
行政資料センター
在籍時代



2019年(令和元)
公開歴史講座にて



2024年(令和6)
公開歴史講座にて

北区の部屋 今月の展示

領収証から歴史が見える ～押し入れの中の大切な地域遺産～

- 展示期間 2月27日（金）～3月27日（金）
- 展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー



今月の展示では、かつて黒川徳男氏が講演会の中で行ったリレートーク「北区の文化財」での講演内容をパネルのかたちで紹介します。その内容は現在でも「北区の部屋」で大事にしていることであり、地域資料に対する考え方を感じていただけるものになっています。



黒川徳男氏と作った本たち



中央図書館では、「北区の部屋」をより身近に感じていただけるよう、黒川徳男氏・保垣孝幸地域資料専門員の執筆により刊行物を作成してきました。

なかでも、小学生にも分かりやすく、そして「ふるさと北区」に親しみと愛着をもってもらいたいと作成した本が『北区の歴史 はじめの歩』シリーズです。平成22年から平成25年にかけて刊行し、その後、より新しい情報を加え読みやすく全面的に見直した「改訂版」を令和2年から刊行してきました。改訂版のラストを飾る「王子西地区編」は4月の刊行・発売に向けて只今準備中です。お手元に届くまで今しばらくお待ちください。

【発売中の刊行物】

- ・『北区の歴史 はじめの歩』 改訂版 各 400 円
(赤羽東・王子東・滝野川東・浮間・滝野川西・赤羽西・王子西の7地区)
(王子西地区編は4月刊行予定)
- ・『TOKYO 北区のKITA みち～目で見ると北区の歴史～』(日本語版・英語版) 各 500 円
- ・『北区こぼれ話』(1～3) 各 200 円



※いずれも区内図書館で貸出しています。

黒川徳男氏は、日本近現代史を専門とする歴史研究者で、『北区史』編纂以来、長きにわたって北区の歴史資料保存、活用に尽力してこられました。

一般に、日本近現代史を専門とする場合、どうしても国や政府といった全体の動きに注目が集まり、ともすれば一つ一つの地域資料、いわば、どこにでもあると考えられそうな歴史資料が軽視されがちになります。しかし、黒川氏はそうした一つ一つの資料にも真摯に向き合い、多くの歴史資料を保存するとともに、その価値を紹介されてきました。

また、「北区の部屋」の活動にとどまることなく、北区平和祈念週間や区民大学、様々な講演会やイベントなど、図書館以外の団体、諸機関が行う事業にも積極的に協力され、北区全体にわたる近現代史部門を黒川氏が担ってきたとって過言ではありません。

そんな黒川氏の跡を埋めるのは容易なことではありませんが、「北区の部屋」としてもその意思を継ぎつつ、今後とも北区の歴史資料の保存、そして活用に努力していきたいと考えています。

(地域資料専門員 保垣 孝幸)



2020年(令和2)
公開歴史講座にて